

大学の世界展開力強化事業(平成29年度選定) 長崎大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度29年度・(タイプA(ロシア)))

「日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業」

【事業の概要】

本事業では、「日露の大学間連携によって、災害・被ばく医療科学分野における日露両国、及び世界の専門家育成」を図る。31年前にチェルノブイリ原子力発電所による被害を経験したロシア連邦の連邦国立高等教育機関「I.I. メーチニコフ名称国立北西医科大学」(以下、北西医科大学)をはじめとするロシア連邦及びベラルーシ共和国の大学及び研究機関と、6年前に東京電力福島第一原子力発電所事故を経験した日本の長崎大学及び福島県立医科大学が連携し、世界的にも人材が不足している災害・被ばく医療科学分野の専門家育成に取り組む。

北西医科大学との ダブルディグリー構築に向けて



【交流プログラムの概要】

長崎大学及び福島県立医科大学の「災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)」の学生を北西医科大学等に派遣し、再生医療学や放射線生物学といった分野の講義を受講させ単位互換を行う。また、北西医科大学等の学生を長崎大学及び福島県立医科大学で受入れ、リスクコミュニケーション学や被ばく影響学といった分野の講義を受講して単位互換を行う。更に長崎大学・川内村復興推進拠点や福島県立医科大学における実習にロシア側の学生が参加するといった交流実績の構築から最終的なダブル・ディグリー制度の構築を行う。

【本事業で養成する人材像】

チェルノブイリ・福島での教訓を踏まえ、以下の人材育成を長崎大学、福島県立医科大学と北西医科大学の連携によって行う。

- ・ 防災計画等から放射線災害発災期の原子力災害医療を含む医療に対応できる人材
- ・ 災害発生前、収束期から復興期の災害サイクルに応じてリスクコミュニケーションや保健活動等ができる人材
- ・ 科学的エビデンスの創出、国際機関、専門委員会などで国際的なガイドラインを策定できる人材

【本事業の特徴】

本事業は、チェルノブイリ原発事故を経験したロシア連邦の北西医科大学と、原爆や東京電力福島第一原子力発電所事故を経験した長崎大学、福島県立医科大学が、これまで蓄積した知見を人材育成分野に応用し、日露両国のみならず、世界における災害・被ばく医療科学分野の専門家を育成するとともに、最大の特徴がある。

【交流予定人数】

	H29	H30	H31	H32	H33
学生の派遣	6	10	10	10	10
学生の受入	0	10	10	10	10

1. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【○長崎大学・福島県立医科大学】

【日露の大学間連携による災害・被ばく医療科学分野におけるリーダー育成事業】

(選定年度29年度・タイプA(ロシア))

■ 交流プログラムの実施状況

- (1) 事業実施のための事務体制の整備
- (2) ロシア・ベラルーシへの学生派遣
- (3) コンソーシアム設立総会の開催



〈国立ベラルーシ医科大学のセミナーで学生達と〉 〈セミナーでのロシア北西医科大学学生との交流〉

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- 修士学生: 平成30年1-2月にロシア国立北西医科大学へ4名派遣。現地の学生とともに「住民の健康保護」セミナーを受講した。
- 医学部生: 平成30年1-2月に3名、2-3月に2名を国立ベラルーシ医科大学・国立ゴメリ医科大学に派遣。現地のフィールド研修や英語による講義を聴講した。

○ 外国人学生の受入

- 平成29年度の受入は無く、次年度以降の単位互換を伴う本格受入に向けて準備を進めた。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	6	9
学生の受入	0	0

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(1) コンソーシアム設立総会の開催(平成30年2月)

長崎においてロシア・ベラルーシ各大学の学長らを招聘し、長崎大学・福島県立医科大学の副学長らの列席のもと設立総会を開催した。プログラム運営に関わる意見交換と共に、今後の事業方針を決定した。

(2) 学術交流協定の締結(平成30年3月)

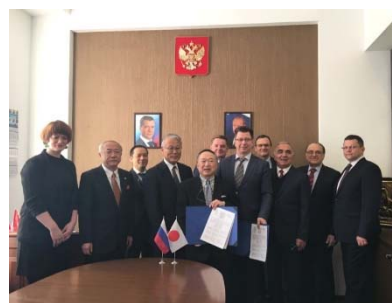
福島県立医科大学がロシア国立北西医科大学との学術交流を始めるにあたり、ロシアにおいて学術交流協定を締結した。

(3) 第一回カリキュラム委員会の開催(平成30年3月)

コンソーシアム設立総会の決定を受け、カリキュラム担当教員が訪露し単位互換の科目選定や時間配分など具体的な協議を開始した。



〈コンソーシアム設立総会〉



〈学術交流協定調印式〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備



〈長崎大学 ゲストハウス〉

- JASSOの支援により学生の経済的負担が軽減され、学習に専念できる環境が整った。
- 福島県川内村の復興推進拠点に放射線測定器等の機器・機材を導入し、高度かつ充実したフィールド実習に備えた。
- 長崎大学において留学生や研究員を対象にしたゲストハウスが竣工し、留学生の受入体制を整えた。



〈車載型放射線モニタリングシステム〉

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- 本事業の実施主体である「災害・被ばく医療科学共同専攻」のロシア語版パンフレットを作成し協力校・各協力研究機関に配布し、広報を行った。
- ホームページを開設し、学生派遣や設立総会の様子を掲載し、本プログラムの周知に努めた。
- 海外の協力研究機関への宣伝やロシア語パンフレット等による広報の結果、ロシア語圏のカザフスタン共和国から次年度(平成30年)の入学希望者があった。

■ ゲッドプラクティス等

コンソーシアム設立総会では各大学の教員が参画する、①カリキュラムや学生派遣・受入時のトレーニングコース作成、単位互換、将来の共同学位を担当するカリキュラム委員会と、②学生のコミュニケーション能力向上、講義・トレーニングコース・学生の渡航の調整を担当する学生交流委員会、③またその活動を管理、評価する運営管理委員会を設置し、機動的な運営を開始した。



〈ロシア語版パンフレット〉